

どうくつと空

対比から気づくこと



空と景色が見渡せる
展望エリア

友人と語り合えるベンチ

子連れ、家族で過ごせる
高台のちょっと広いベンチ

壕：戦争について考えるエリア。裏側には既存植栽に囲まれた、一人で考え事をするベンチがある。展望エリアの屋根に剛性を持たせる役割も担っている。

海軍壕公園の歴史
が分かる看板

対比するもの

暗い → 明るい
狭い → 広い
静 → 動
考える → 行動

戦争 平和

■建築概要

展望台
面積 屋根面積：53.19㎡ 土間面積：32.20㎡ 延床面積：65.19㎡

設計趣旨

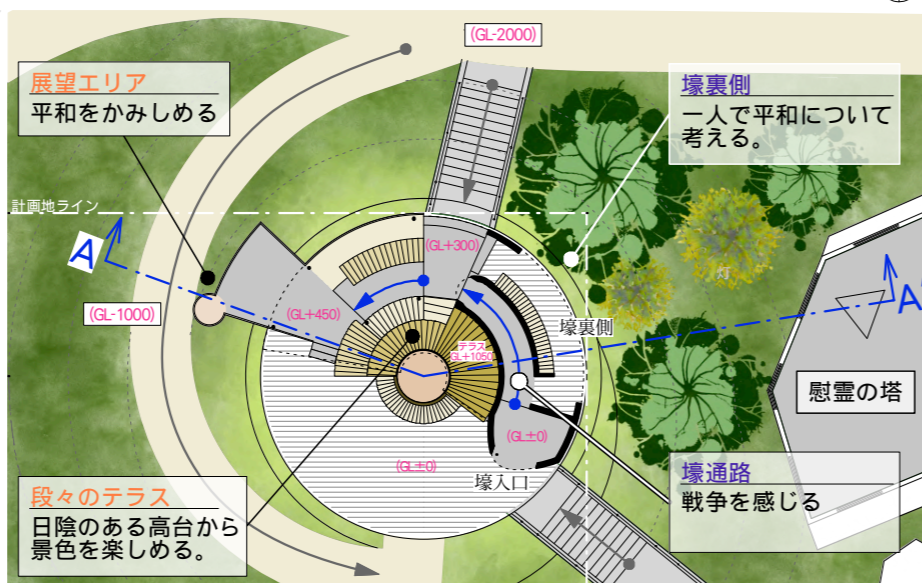
本敷地は高低差のある広い公園の頂上に位置し、美しいパノラマの景色を楽しめると同時に、かつて日本海軍の司令壕があった場所で、慰霊の塔やお墓があり、戦争の悲惨さや平和について考えさせられる場所となっています。戦争の時代人々は空の见えない狭い防空壕に身を潜め、恐怖と闘いながらも生き抜いてきました。現代、同じ場所で人々は空と高台からの眺望を望むことができます。本施設では、さまざまな対比を通して戦争と平和を考えるきっかけとなるような展望台を提案します。

手法

戦争の時代と現代の平和な時代を対比して、パノラマの景色に平和の尊さを感じてもらおう。防空壕内を連想する様な「暗く狭い壕」と見晴らしのより良い「展望エリア」を計画し、暗いエリアから明るい展望エリアに進むよう誘導する。訪れた人が戦争中暗く狭い防空壕に隠れていた重苦しさを感じ、明るく広い景色を見ることで、戦争と平和の対比を感じ平和の尊さを体感できるような施設にします。

配置計画 (1/250)

壕入口から展望エリアへ導線を計画



展望エリア
平和をかみしめる

壕裏側
一人で平和について考える。

註画地ライン

(GL-1000)

(GL+300)

(GL+450)

(GL±0)

壕裏側

壕通路

戦争を感じる

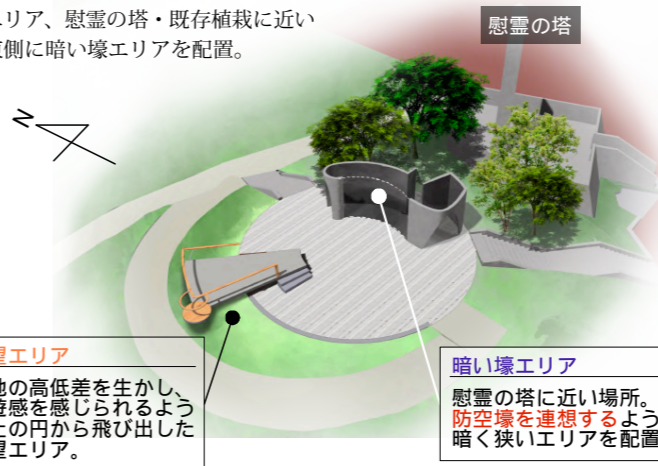
段々のテラス
日陰のある高台から景色を楽しめる。

ダイヤグラム

暗く狭いエリア(壕)と明るい展望エリアの景色を戦争と平和の対比として体験し、頂上パノラマの景色から平和の尊さを感じる展望台

(1)明るい展望エリア・暗い壕エリアを計画

既存スロープから一番高低差のある北西側に展望エリア、慰霊の塔・既存植栽に近い東側に暗い壕エリアを配置。

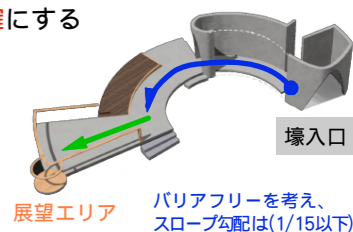


展望エリア
敷地の高低差を生かし、浮遊感を感じられるよう頂上の円から飛び出した展望エリア。

暗い壕エリア
慰霊の塔に近い場所。防空壕を連想するような暗く狭いエリアを配置。

(2)スロープで導線を明確にする

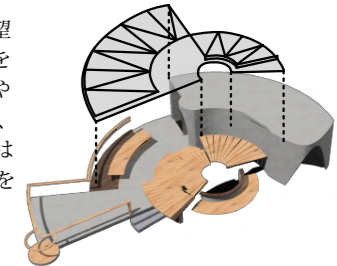
円形の敷地を生かし、東側の壕入口から進むにつれ徐々に先が見えるよう円弧状のRC壁を設け、展望エリアに向かってスロープを作り導線を分かりやすくする。



展望エリア バリアフリーを考え、スロープ勾配は(1/15)以下

(3)各レベルに合わせてテラス、屋根を配置

スロープのレベルに合わせて展望エリア・テラスを配置。壕を抜けた先から高台のテラスや展望エリアに進めるよう配置し、テラスには屋根、展望エリアには屋根は設けず、最大限解放感を感じられるよう計画した。



壕入口から展望エリアへの視線の変化（シーケンス）



防空壕入口の様な形状から、戦争時代の暗く狭い防空壕内を連想する。入口付近には海軍壕公園の歴史が分かる看板を設置。



暗い壕内を進むにつれ徐々に空とパノラマの景色が見えてくる。



景色を見渡せる休憩所と、その奥には展望エリアが見える。



景色と空が見渡せる展望エリア。さっきまでの「暗く狭い壕」と対比して、より景色が美しく見え平和の尊さを感じる。

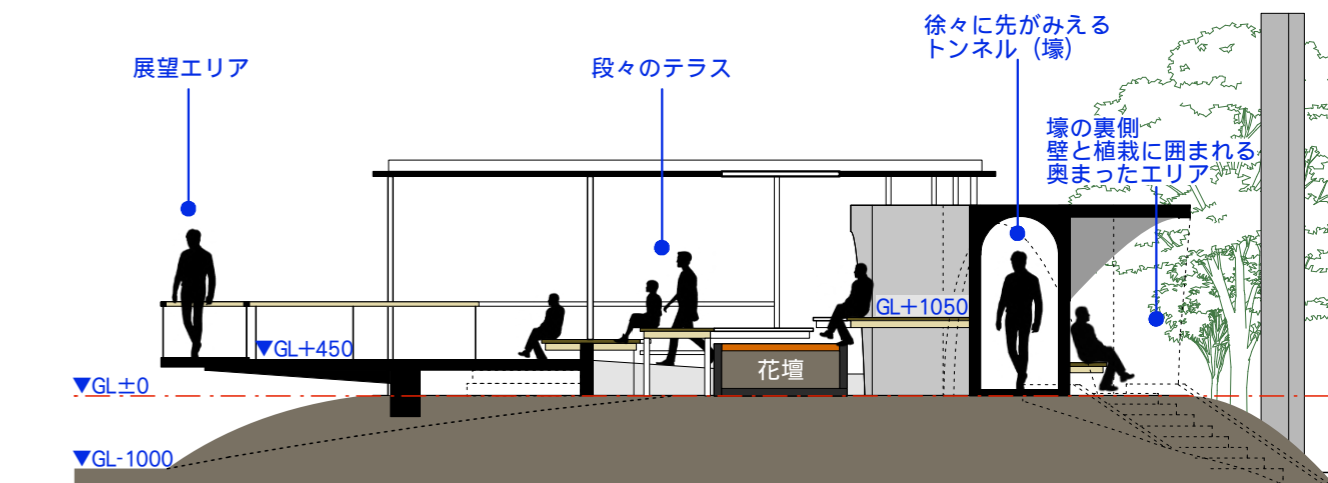
休憩所としての機能



休憩所としての機能
本敷地は360°美しい景色を堪能できるので、全方位に向かって座れるベンチを設けます。一人客、家族客など、訪れる人々の状況によって好みの場所を選べるよう、ベンチの大きさ、奥まりなどを変化させ、それぞれのスペースに特徴を持たせます。レベルの高いベンチ（最高GL+1050）は、暗い壕を抜けた先に設け、高台からの景色をより楽しめるよう計画した。



A-A'断面図 (1/100)



壕の裏側（一人で考え事をするスペース）

敷地東側、慰霊の塔と既存植栽に向かい合うようベンチを配置し、適度に奥まりを確保するため、アーチ状の壁を計画。ここでは慰霊の塔と向かい合い、一人で平和について考えます。



■構造計画
壕を壁式RC造で計画。テラスの屋根は薄いHPCを鉄骨で支える。テラス・休憩スペースの柱について、景色を邪魔しないよう極小断面の柱にする為、鉛直軸力のみ受ける部材として扱う。水平力については、屋根の鉄骨をトラスで構成し、隣接するRC壁に接続させ剛性を確保し地震時の水平力を負担する。台風時、風の吹上については、風が溜まらないよう隙間を設け、力が逃げるよう計画する。

■塩害
鉄筋を防錆処理する。または耐食鉄筋を使用する。具体的には溶融亜鉛めっき鉄筋(SD295AG,SD345G)を採用します。この鉄筋はめっき処理が施されているが、現場溶接も可能。通常の鉄筋と扱いが同等となり、施工性の問題はない。